

第5回 夕張シューパロダムモニタリング部会（平成29年2月22日）指摘事項と対応（案）

委員	指摘事項	当日の回答及び対応（案）
岡村委員	P32に「湛水によって一時的に裸地化した箇所では侵略的外来種の生育地が拡大している兆候がある。」とあるが、今後は河川水辺の国勢調査での確認だけでなく、ある時点で手を打つことも必要になる。	まだ調査段階ではあるが、今後もそのような問題があり、来年度のモニタリングまたは次年度以降のフォローアップで対策が必要というご指摘があれば今後対応していきたい。
	ダムができることにより下流の河床が変動しなくなるので、これに対する下流側のモニタリングも重要。	夕張川下流には河川に興味を持っている団体が有り、下流河川についても会議の場で情報交換している。下流河川の植生変化については、長期的視点で確認していくことが重要と考えており来年度以降もご意見をいただきつつフォローアップ調査に移行していきたい。
中井委員	ダム景観は今後変わっていく部分も多く、案内標識などは出し方によっては逆にマイナスになることもたくさんある。場当たり的に出てくるのではなく、当初から色使いや出し方等、関係機関で枠組みを作り実施していくと良いものになる。	案内標識は関係者が複数のため、様々な団体で構成されている夕張市の協議会等で議論していきたい。
	河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）で景観調査も実施した方がよい。	北海道では水国調査で景観アンケート調査を実施しており、シューパロダムでも同様に実施する。
	水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）は全国一律の調査内容や実施日であるため、紅葉時期など北海道の観光シーズンに実施されていない。地域性を踏まえた実施時期とすることが必要。	基本調査としてはマニュアルに記載された全国一律の日程で実施する。それに加えて、北海道の気候やダムの特徴を踏まえた時期も実施することもできるので今後検討したい。
眞山委員	ダム下流については、直下でワカサギ、エゾホトケドジョウ等、ダム湖から落下してきた種がみられる。ダム湖の中で侵略的外来種が増えると、下流のダム湖を含めて深刻な問題になるおそれがある。	現況では大きな問題は確認されていないが、今後もダム下流の状況に注視したい。
	釣り人がコクチバスやブラウントラウト等を放流しないかどうか、注意が必要である。	今後、貯水池巡視、調査業務等で気をつけたい。
松井委員	冷水放流に対しては、選択取水設備の運用で対応していくということによいか。	現在は管理2年目であるためデータ蓄積に努めているところであるが、選択取水設備の運用で対応する予定。
	アセスメントの事前評価と比較して、予想どおりの結果になった、また、予想とは少し異なる状況になった等の評価コメントが必要。	来年度以降のモニタリングで検討し、とりまとめの際に評価コメントのなかでご指摘のとおり対応したい。

当日欠席委員の事前説明時指摘事項と対応（案）

委員	指摘事項	当日の回答及び対応（案）
柳川委員	調査の目的は種数の多少ではなく変化を確認するためのものなので、変わっていればどう言う理由からか考察する必要がある。	来年度以降のモニタリングで検討し、とりまとめの際に評価コメントに反映したい。
	変化があっても予測の範囲内であれば今後は調査間隔を長くしても良い。	調査結果を踏まえて調査間隔を長くするよう検討する。
岩佐委員	今後、河川水辺の国勢調査に移行した場合、同調査マニュアルに準拠した調査方法となるが、方法が異なる調査もあるのでモニタリング段階の調査方法を明確にした評価の記載とすることが必要。	来年度以降のモニタリングで検討し、とりまとめの際に評価コメントのなかで対応したい。